

僕が子どもたちに 遊んでもらっています

「立場上、子どもたちを
見守ってはいませんが、実際
は僕が子どもたちに遊んで
もらっているようなもので
すね。僕と子どもたちは、
やや年齢の離れた友達みた
いな感じなんです。子ども
もたちとかかわることを純
粋に楽しんでます」

競啓太さんは、現在、競
さんが住んでいる地域の子
ども会「鉄東地区すずかけ
子ども会」の企画・運営を
担当するほか、「まとめ役」
として活動する「リーダー
研修生」の子どもたちに、
競さん自身が「リーダー」
として経験してきたことを
アドバイスする立場として
も活躍しています。

「子ども会では地域の低
学年の子どもから高学年の
子どもまで、一緒にあって
一つの目的に向かって取り
組めます。子ども会を通じ

て、低学年の子は年上の子
どもたちのかかわり合い
のなかで社会性を、高学年
の子は年下の子どもたちの
面倒を見ることなどで、『場
をまとめる力』を身に付け
ています」

活動の中で子どもたちが
気付かないことをそれとな
く気付かせてあげること、
それが子ども会での僕の役
割です、と競さんは話しま
す。

「やってみたい」を 大切に

「子ども会は、子どもが
つくる地域の社交場であっ
てほしいと思っています。

今は大人が手をかけて子ど
もを導く雰囲気があります
が、今後は子どもの『やっ
てみたい！』を大切にしてい
く。本当の意味での『子どもが
主役の子ども会』を目指し

ていきたいです。子どもの
居場所を大人がつくるのも
悪くはないと思います。が、
子どもの居場所は、子ども
が自分でつくったほうが
きっと楽しいですし…。そ
のための手伝いは、可能な
限りしてあげたいですね」

町内の一住民として、子
ども会が今以上に地域のま
ちづくりに参加していける
ようになれば…、と子ども
会への思いを話す競さん。

「子ども会を見守る立場」
そして「子ども会のイベン
トを楽しむ一住民」として、
これからも競さんは地域の
子どもたちの「心と体」を
育ててゆくことでしょう。



「自分が楽しんで活動し
ていることが、地域の明る
さや活性化につながってい
る」

お二人のお話を伺っ



東区子ども会
鉄東地区すずかけ子ども会

部長 きそう けいた 競啓太 さん

「ていつて、「まちづくりの活動」
の原点に気付いた気がしま
した。」

「自分も地域も楽しい活
動、どんなものがあるか、
皆さんも一度着せてみませ
んか？」

